

2011年(平成23年)11月25日(金曜日)

宮城の思い サンタに届け

東日本大震災の被災地支援につながればと、宮城県の子どもたちが書いた「サンタさんへの手紙」展が、藤枝市上藪田の葉梨郵便局で開かれている。いずれも昨年、投函された手紙で、募集した関係者は「震災で亡くなった子どもたちの供養になれば」と話す。12月22日まで。入場無料。(高橋健一)



宮城県の子らが書いたサンタさんへの手紙展。藤枝市上藪田の葉梨郵便局で



藤枝 昨年募集子どもの手紙展示

手紙は、財団法人「日本・フィンランドサンタクロース協会」(静岡市駿河区)あてに届いたメッセージやイラストのほがき。協会は二〇〇九年からサンタへの手紙を募集しており、手紙が一番多かった都道府県に毎年、フィンランド政府公認のサンタクロースを派遣している。

昨年は全国から四万六千枚の応募があり、このうち三万二千枚が宮城県から。協会の活動が紹介され、「サンタを呼び、地域を明るくしたい」との思いが、行政を巻き込んだ運動になったという。

宮城県の応募分のうち

震災で亡くなった子の供養に

ち、一万四千枚は津波被害の大きかった沿岸部から届いた。協会の担当者「亡くなった子どもの手紙もあると思う。協会内で議論もあったが、世に出すことで供養になると考えた」と話す。巡回展は先月末から神奈川、新潟、山口県などで開いている。

葉梨郵便局では、六十点の手紙を紹介。「みやぎにきて、まってるよ」「あえるかなー」「いつもプレゼントありがとう」といった素朴なメッセージが色鉛筆やクレヨンなどで書かれている。サンタの絵も添えられ、楽しい作品がいっぱいだ。